



ZOWAオリジナルプロジェクト「君が私をダメにする」公開台本

▼使用に関する注意事項

「君が私をダメにする」公式サイト(<https://fun.zowa.app/lp/kimidame/>)に公開されている利用規約を必ず「一読いただき、規約に沿って」利用ください。

## 第1話「お祝い」

【登場人物】

ケン

リョウ

マサヤ



SE 居酒屋のガヤガヤ

SE グラスが当たる音

ケン 「で、今日の集まりってなに？」

リョウ 「今日はマサヤのお祝い」

ケン 「え？なんかいいことあったの？」

リョウ 「明日マサヤがリナちゃんについて告白するんですけどー」

マサヤ 「あんま大きい声で言うなよ。恥ずかしいだろ」

ケン 「いや、うううのって告白した後にするもんじゃない？

成功してよかったねー！みたいな

リョウ 「うううお祝いだよっ！音ですんのお祝い」

マサヤ 「まあ、お祝いって何でもまあいいよまあ」

リョウ 「だよねー」

ケン 「そででいっのかよ」

リョウ 「あ、はい、はい、はい……」

お祝い用のケーキ買って今から用意できますか……」

ケン 「デザートで普通のケーキ頼め」

リョウ 「……はい、はい、はい……」

マサヤ 「まずは映画観に行きましょう」

リョウ 「……、何の映画……」

マサヤ 「恋愛映画」

ケン 「あー、いい話題のやつ……なんだけ……」

マサヤ 「……、はい、はい、はい……」

ケン 「いや、出てない……マサヤだろ。マサヤ」

マサヤ 「……、はい、はい、はい……」

リョウ 「君が僕をダメにする、だろ」

ケン 「あ、それぞれ……お前、よく知っているな」

リョウ 「うん。今日、リナと行った」

ケン 「えっ?」

リョウ 「いや、だから、リナが観たいっていうから一緒に見に行ったんだって。面白かったよ。ラスト前で主人公がヒロインを助ける為に死んじゃう所なんて特に」

マサヤ 「やっぱり!あれ面白いと思ってたんだよねえ」

ケン 「え、明日マサヤが告白するんだよね?なんでリナさんと一緒に映画見に行ってるの?しかもネタバレしてるし」

マサヤ 「あ、そうじゃん!ネタバレは酷いよ、リョウ!」

リョウ 「大丈夫!ラスト前で主人公死んじゃうところは何回でも泣けるから」

マサヤ 「よかった」

ケン 「マジか、お前」

リョウ 「でもあいっし、ラストになったら俺の手を繋いできたんだよな」

ケン 「それ、お前の」と好きでっしょ」

マサヤ 「悲しかったのかな？」

ケン 「マジか、お前」

リヨウ 「でも映画観に行ったのは友達としてだよ？だから大丈夫！」

マサヤ 「すごいなあ。リナさんは男女関係なく遊んでくれるんだ」

リヨウ 「な！いい子だよな！明日頑張れよ！」

マサヤ 「あー！緊張してきたー！」

マサヤ 「リナさん今頃なにしてるのかな。服とか選んでるかな」

リヨウ 「まだ俺の家にいるよ」

ケン 「え？なんで？」

リヨウ 「映画見終わった後に、この後どうするのって聞いたから俺の家に行ってみたい」って言ったから普通に連れて行ったよ」

ケン 「で、なんて言っただけだよ。」

リョウ 「俺はマサヤと飲みに行くから家で待っていていいよって言った」

マサヤ 「……」

リョウ 「あー大丈夫ー！マサヤが告白するんじやないからー！大丈夫ー！」

マサヤ 「良かった。……」

リョウ 「……」

ケン 「それ絶対お前のじゃ好きじゃあ」

リョウ 「んなわけないじゃあ。」

それより、マサヤはリナの「」を好きになったの？」

マサヤ 「やっぱり、誰にでも優しい人かな」

リョウ 「そっかー……そりゃ好きになっちゃうよねあー！」

ケン 「でも俺マサヤがリナさんと話してるところ見たことないな」

マサヤ 「あゝお。お。」

3回へんじいかな？！ノー！貸して！、自転車貸して！、あどほ…お金貸して！

リョウ 「信頼されてんなー！」

ケン 「それで告ろつとておの？！無理じゃね？！」

リョウ 「おいーそついう言い方やめろよ。回数よりも気持ちが大重要だ！大丈夫！

成功するぞいいなー！」

マサヤ 「うんーありがとー！」

SE 電話の着信音

リョウ 「あ、電話だ。はいはい。ん、はいはい。うん。うん。分かった。

気持ちは分かった。オッケー。じゃあまた明日ね！あ！明日はダメだ！

明後日！明後日！！」

リョウ 「(電話切つて)ふう、あぶねー！」

ケン 「誰から？」

リョウ 「リナから！」

マサヤ 「なんて言ってた?」

リョウ 「好きだから付き合ってたほしって」

ケン 「ほら好きじゃん!」

マサヤ 「ええ〜!」

リョウ 「まだ大丈夫!俺は返事をしていない!」

マサヤ 「そっだよね!?まだチャンスあるよね?」

ケン 「マジか、お前!」

リョウ 「諦めたらそこで試合終了だ!」

マサヤ 「うん!」

ケン 「お前いま目の前でゴールされたの見ただろ!」

リョウ 「..それがら逆転ゴールじゃねー?」





ケン 「よ〜電話できるな」

SE 電話出る音

マサヤ 「あ、もしもっ……。切れた」

リョウ 「大丈夫。忙しいんだろ」

ケン 「お前の部屋にいるけどな」

マサヤ 「5分ごとにはけなおそっかな」

ケン 「リネーよ」

リョウ 「じゃあどうしよう。俺とマサヤの二人でリナを放課後に教室に呼び。」

そこでマサヤを紹介。マサヤは紹介された後で好きって言えばいいんじゃないかな、映画に行く」

マサヤ 「天才だね」

リョウ 「で、マサヤがフラれたら、俺がちゃんと責任をもって付き合っって欲しいっ

て言っつ」

マサヤ 「リナちゃんカワイイもんね。気持ちわかるよ。でも僕が先だからね」

リョウ 「おう！順番だ！」

ケン 「マジか、お前ら」

リョウ 「あ、ケンも来るか？」

ケン 「いかねーよー！」

マサヤ 「告白した後のお祝いはどうしてやるの？」

リョウ 「あ、そっだ！それ忘れてたわ！ケン！さすがに祝勝会はくるだろ？」

ケン 「いかねーよー……！」